令和元年　斜面樹林化技術協会現地見学会・技術研修会の開催報告

斜面樹林化技術協会 技術委員会

令和元年 11 月 18 日（月）に，斜面樹林化技術協会の現地見学会が龍城公園災害復旧工事法面（栃木県大田原市城山地内）で開催されました。当日は協会員 14 名が参加し，施工 7 年 6 ヵ月後の植生状況を見学しました。

この現場は，龍城公園内で発生した災害復旧工事において周辺の落葉広葉樹林との調和を図るため，国内産在来木本種子（アカメガシワ，ノイバラ，コマツナギ）を配合した斜面樹林化工法が，2012 年 5 月に施工されました。

施工 7 年 6 ヵ月後にはアカメガシワが被度 5 で優占する群落高 12 m の植物群落が形成され，アカメガシワは平均樹高 11.2 m，成立本数 1.4 本/m^2 となり，直径 10.4cm の個体も確認されました。下層には導入したノイバラの他に，自然侵入したイロハモミジ，アオキ，コナラ，シラカシなどが生育し，種組成の観点からも今後徐々に周辺の落葉広葉樹林との調和が図られることが期待されます。

午後からは，栃木県さくら市にある東興ジオテック株式会社の RS センターで技術研修会が行われ，1）2019 年 7 月に改訂された斜面樹林化工法カタログについて，2）斜面樹林化工法で使用する国内産在来種子の専用貯蔵・製品化施設である RS センターの概要，3）木本種子の発芽率を短期間で検定できる早期発芽力検定法の概要，4）外国産在来種の使用禁止等を示した日本緑化工学会 2019 提言の概要について説明した後，RS センターを見学し，理解を深めていただきました。



参加者一同（RS センター）



現地見学会（背景が施工地）



技術研修会